

学年集会 『「みる」ということ ～村上定運氏～』

12月12日（木）の「学年集会」を活用し、2・3年生を対象にしたビッグな講演を実施しました。

奈良薬師寺の僧侶でいらっしゃいます村上定運氏を講師にお迎えし、『「みる」ということ』と題して、人としての在り方・生き方についてお話しをいただきました。



本校では、毎年見学旅行で薬師寺を訪れます。現3年生も現2年生も偶然村上氏から法話を聞く事ができ、いずれの学年も大きな感銘を受け帰校しました。

この度本校の希望と定運氏の来道予定が上手くかみ合い、本日の講演が実現しました。

定運氏は、講話の中で「本来の個性とは、単に表面的なものを言うのではなく、人の為すべき理想の姿を見極めた中から発せられるものであり、それを見極めるためには訓えを乞わなければならない。それが毎日の高校生活ある」ことや「人が光り輝くのは、それをしっかりと支えている周囲のお蔭があること。だからこそ感謝の気持ちが大切」、また「目の前の目的だけに執着するのではなく、その先にある自分の生き方を求め努力し続ける事が重要」といった内容をお話しされました。



3年生は受験を目前に不安を抱える時期でもあります。定運氏の軽妙な語りにも誰かが引き込まれ、笑いの中にも一つ一つの訓えに深く頷く姿が何度も見受けられました。

やる気と元気のパワーをもらったことと思います。

今日の講演は3年生の保護者にも案内され、80名近い方々が一緒に傾聴されました。

『何事にも顔を下に向けてばかりいると（倒れていると）、全てが「面（を）倒（す）」になります。逆に、顔を上げれば光があたり「面（が）白（い）」になります〔講演より〕』

ちょっとしたことでも、世界が変わることを痛感しました。

